令和3 (2021) 年度 事業計画書



令和3(2021)年4月1日 学校法人 四條畷学園

目 次

令和3年度事業計画の策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
長期ビジョン・中期計画の全体イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・2
長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
中期計画の骨子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
《事業計画》
法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
四條畷学園大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
四條畷学園短期大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
四條畷学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
四條畷学園中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
四條畷学園小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
四條畷学園大学附属幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
四條畷学園保育園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
主な新規事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

令和3年度事業計画書の策定にあたって

昨年は2月末以降、特に4月の緊急事態宣言発令以降、臨時休校、分散登校という前例のない状況のもと、教職員は、学生・生徒・児童・園児(以下生徒という)のために、リモート授業への取り組み、発症時の対応、メンタル面のケアなどに努めました。見直された行事もたくさんありましたが、こういう状況だからこそ、貴重な経験になったという生徒の声も数多く寄せられ、「教育の力」を実感させられた年になりました。

二次中計の重点課題は広報体制の強化、教育改革の推進、財務基盤の強化でしたが、今回のコロナ禍などの状況の変化により、次のような新たな課題も明確になりました。

- ①「リモート×リアル」~新しい教育様式と広報様式
- ②コロナリスクへの対応~正しく恐れる
- ③大東市駅前整備事業関連

「リモート×リアル」については、第二波、第三波から今後のリスクを想定すればリモート授業はますます重要性になります。この1年間、教職員のICTスキルも向上し、ICT環境も積極的に整備しました。引き続き、4月には更なる体制強化のためにICT企画サポート室を設けます。これからはリモート授業とリアル授業を対立的に捉えず、それぞれの特性を活かし、問題解決力と人間力を兼ね備えた人材を育てることが求められます。社会的距離が求められる時代であればこそ、人と人のこころの近さと自立・自律性を大切にする学園教育の独自のスタイルをつくり上げるとともに、そのような学園教育の良さをハイブリッド型広報で発信していきます。

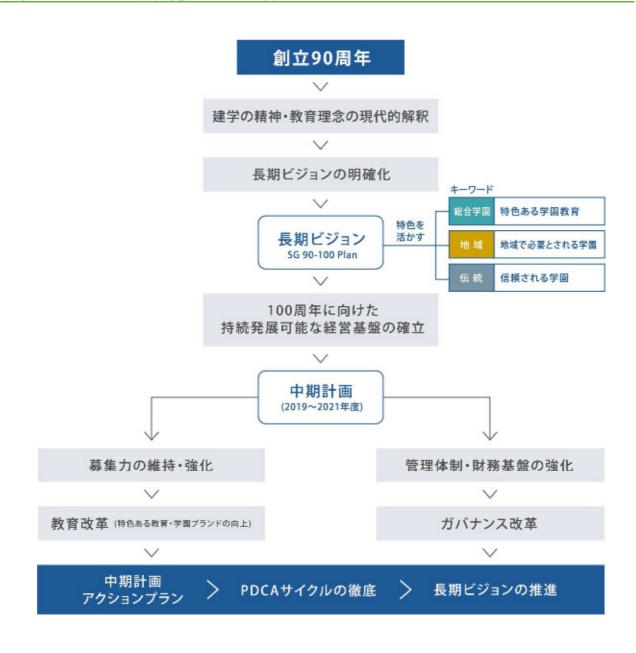
コロナリスクへの対応については、話題になっている「正しく恐れる」の言葉のとおり、正確な知識と情報に基づき、手洗い、マスクなどの「感染症予防の基本」を徹底し、引き続き、学園がクラスター源にならないよう、日常のリスク管理レベルをあげていきます。

駅前整備事業関連については、厳しい話題が多い中で、学園の顔である駅前が整備されることは、地域はもちろん、学園の発展にとっても今後の明るい材料になります。

昨年6月に、小学校の南側道路の拡幅のため、小学校グランド用地の一部を大東市に売却する契約を正式に締結しました。今後、3年度にかけて、対象となる遊具移設、プール・算国教室撤去工事を行います。また、令和7年度末までに学園に払下げされる学園中央道の土地の活用整備については100周年記念事業として別途検討していきます。今回の整備により、駅前ロータリーが整備され、駅からはペデストリアンデッキでつながれ、名実ともに「駅前キャンパス」にふさわしい姿になり、広報面からも、従来以上に駅前にある学園というイメージを訴求していきたいと思っています。

これらを含めた今後の中長期課題へ挑戦するために、「教育の原点」と「創立の原点」の二つの原点に立ち返り、本年は学園の100周年に向けた第三次中計の策定に向け、将来の学園の担い手である中堅若手教職員を中心に検討していきたいと考えています

学校法人四條畷学園 理事長 小谷 明





長期ビジョン・学園宣言の基本的考え方

1. 基本理念

今回の長期ビジョンでは 100 周年をいいかたちで迎えられるよう六つの基本理念を設定して検討を進めました。

基本理念6つの柱

- 1 持続発展可能な経営基盤の確立
- -2 建学の精神・教育理念の浸透・徹底
- 3 総合学園としての教育ビジョンの明確化
- -4 教育改革による学園教育ブランドの確立
- 5 ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底
- 6 地域との共生

① 持続発展可能な経営基盤の確立

100周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のために、中期計画のテーマである「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」に取り組みます。

② 建学の精神・教育理念の浸透・徹底

90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈に基づき、総合学園としての「学園教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」の関係性を整理し、浸透・徹底を図ります。

③ 総合学園としての教育ビジョンの明確化

「総合学園というが、学園全体の統一イメージがわかない」といった声に対し、各校園の伝統的な「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」を学園全体として捉え直し、進化させ、新たな教育ニーズにも応える学園版「アクティブラーニング」に取り組み、教育ビジョンの明確化を図ります。

④ 教育改革による学園教育ブランドの確立

現場の教育実践が学園教育ブランドとして発信力を持つよう、学園らしい「実践躬行」を通じた教育 現場主導の教育改革を重視します。

⑤ ガバナンス改革とコンプライアンスの徹底

全学的な改革を推進していくためには、理事長・校園長をはじめとする各部署の責任者のリーダーシップが発揮され、それによる各組織体のガバナンスが確立されていること、また、全関係者にコンプライアンス(法令順守)意識が徹底されていることが必要不可欠です。合わせて、ディスクロージャー時代を迎え、財務情報等様々な情報を公開することにより、運営面での透明性を確保していきます。

⑥ 地域との共生

地域密着型の総合学園として、募集面だけではなく、保健医療系大学としての特色を活かし、地域との共生のための連携施策を積極的に進めていきます。

2. 長期ビジョンの基本的考え方

【特色ある学園教育】

- 学園には創立以来、徳・知・体の「三育教育」の伝統があり、幼稚園から大学まで各校園ごとに特色 ある「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」が行われてきました。
- 近年、社会から求められている「実習や体験活動などを伴う主体的・対話的で深い学び」すなわちアクティブラーニングと「三育教育」「実践躬行」を重視してきた学園教育とは考え方や方法が極めて近い関係にあります。
- 90周年を機に、建学の精神・教育理念の現代的解釈を通じ、総合学園としての「教育の特色」「育てたい人材像」「学園教育ブランド」を明確にし、学園の伝統的な「三育教育」や「体験型教育」「基礎教育」「人間教育」の特色を進化させ、新しい時代にふさわしく学園らしい「アクティブラーニング」モデルに挑戦していきます。

【地域で必要とされる学園】

- 「学生生徒・保護者・地域の人々から『必要とされる』場所であり続ける」ためには地域との共生が 重要になります。地域で必要とされているか否かの中長期的な評価は募集状況にも反映されます。現 状、近隣地域の在籍者依存度は高水準ですが、将来の募集環境の厳しさを念頭におけば、従来以上に、 学園ブランドの向上とともに様々な連携施策を通じて地域での存在感を高める必要があります。
- リハビリテーション学部に看護学部を加えた保健医療系大学になった今、地域との共生のための知 (地)の拠点整備への取り組み等、従来以上に、地域が抱える課題解決のための連携・協働への期待が 高まっています。

【信頼される学園】

- 90年の教育と経営の伝統が地域や社会から学園に対する信頼の基盤になっています。100周年に向け、引き続き、信頼を重ね伝統を守っていくために、管理面や財務面での運営体制の強化を中心としたガバナンス改革を進めていきます。
- 近年の教育行政によるガバナンス強化の要請の背景には、厳しい環境のもとでは、学校経営も一般企業と変わることなく経営体のガバナンスがしっかりとしていないと存続危機の事態を招きかねないという共通認識があります。
- SNS の時代には、管理体制の問題はもちろん、学園関係者の不用意な言動が風評リスクを通じて信頼喪失そして募集力低下に直結することになります。一人ひとりのリスクに対する意識が従来以上に問われる時代になっているという自覚が必要です。
- 私学事業団方式の評価によれば、財務面では収益性や経費構造上の課題が明確であり、コスト意識とともに予算管理を中心とした PDCA 管理の徹底が求められています。

中期計画の骨子

1. 基本的考え方

中期計画の骨子は以下のとおりですが、期間は2019年度~2021年度の3年間になります。



2. 中期計画アクションプランの共通テーマ

長期ビジョンの基本理念である 100 周年に向けた「持続発展可能な経営基盤の確立」のためには「募集力の維持・強化」と「管理体制・財務基盤の強化」という攻めと守りを同時に高いレベルで実現することが求められます。これらの課題は校園間、教学・事務間の協働・連携等全学横断的な対応が求められることから中期計画アクションプランの共通テーマとしました。

共通テーマ

- ① 募集力の維持・強化
- ② 管理体制・財務基盤の強化

3. 具体的な展開方法

中期計画アクションプランに基づき、全学、校園、本部・各事務室それぞれあるいは協働・連携して展開していきます。教育改革については「特色ある教育・学園ブランドの向上」に向けた教育実践の成果を今後の「持続発展」に必要な「募集力の維持・強化」につなげるため、特に「広報×教育改革」のシナジー効果の視点を重視していきます。ガバナンス改革についてはアクションプランの課題を中心に見直しを行い、引き続き体制整備を図っていきます。

展開方法

- ① 教育改革(全学・校園別)
- ② ガバナンス改革

^{学校}四條畷学園

法人本部

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1)SG 90-100 Plan(長期ビジョン·中計)の推進
		①第二次中計最終年度におけるアクションプランの進捗状況を管理します。(全学園でのPDCA 継
		続)
		②第三次中計「SG ポスト 100」策定に向けた全教職員アンケートの実施、中計骨子及び第三次中
		期計数計画(案)の策定します。
		③校地譲渡に向けた計画策定と進捗管理、安全管理を行ないます。
		(2)短期大学認証評価の受審
		短期大学第三者評価を受審します。
		(3)新型コロナウィルス感染症対策
		新型コロナウィルス感染症収束まで衛生管理を統括します。
2	教育改革サポート	(1)募集力の強化
		①ICT企画推進サポート室設置によるICT環境構築とサポート力の強化を図ります。
		②学内進学促進を目的とした入試・入学金優遇(免除)制度、授業料減免制度拡大を検討しま
		す。
		③同窓生子女の入学金免除制度の検討、兄弟姉妹奨学金制度の見直しを行ないます。
3	財務	(1)学生生徒等納付金の増収
		①小学校授業料の見直しに向け周辺環境を分析します。
		②各校園の入園入学時の奨学金制度の拡充についてサポートします。
		③大学・短期大学の事務組織一本化を契機として奨学金事務フローを見直します。
		(2)外部資金導入等他の収入の恒常化
		①「経常費特別補助」獲得基準など、指標や数値目標を持った大学運営改革をサポートします。
		②寄付金について HP への掲示と新入生への案内に加え、学園新聞やチラシによる同窓生や在校
		生保護者への勧誘を開始します。
		③水泳教室の出欠管理システムの運用開始、令和4年度の音楽教室システム導入に向けた準備
		を開始します。
		(3)人件費比率の適正化
		①令和3年度の期末手当支給水準を確定します。
		②大・短・高・中への人事評価(試行)を開始します。
		(5.人事制度見直しとリンク)
		(4)経営の合理化進展、効率的な財政運営、健全な財務体質の維持
		①予算管理、支払管理を更に徹底します。
		②損益意識の醸成を目的とした教職員向けに財務情報を開示します。
		③財務内容を客観的に評価するために他校比較を継続します。
		④一時的な雑収入と特別収支を分別しつつ、校園別予算・収支管理を継続します。

No	施策種類	事業計画
		⑥高等教育奨学給付金制度導入を機に、振込式で残っている短大学費のファクタリングを準備しま
		す。
		⑦入学時物販と給品部におけるクレジットカード・電子マネーの導入による学内キャッシュレス化を推
		進します。
		⑧校地売買に係る設備案件は厳選し、不要不急な投資案件は見送ります。
		⑨納品·工事業者選定の相見積りを更に厳正化します。
4	教職員の育成	①全学広報委員会による学園広報活動や本部によるリスク対応案件を通じ、職員と教員の連携を
		更に強化します。
		②各校園による公開授業、授業アンケート結果の分析・活用、アクティブラーニングの実施をサポー
		トします。
		③事務連絡会におけるテーマ別 SD 研修を継続します。
		④自己研鑚手当を利用した外部研修受講支援を継続します。
5	人事制度全般の見直	(1)教職員の定員管理
	し・整備	①少子化の進行を見据え、有期雇用の教職員比率を高めます。
		②幼・保教員確保の安定化に向けた嘱託教員の処遇見直し、教員募集チャネルの拡大を図りま
		す。
		(2)教職員の能力開発の仕組みの検討
		①SG 教育アカデミーを立ち上げ、教育力向上や ICT 対応力強化に向けた活動を開始します。
		(3)給与体系の全般的な見直し
		①大・短・高・中の令和2年度人事評価(試行)の確定します。
		②高評価者に対する校園長ファンド額の決定と分配を行ないます。
		③令和3年度における個人別目標を設定します。
		④役職手当を含む諸手当変更の検討を開始します。(3.財務施策とリンク)
6	組織·権限	(1)コンプライアンス・ガバナンスの強化
		①監事一内部監査一監査法人に加え、顧問弁護士や社労士と連携を密にし、労務問題等への対
		応を迅速かつ正確に行います。
		②一部理事の役割分担や業務内容を見直し、意思決定の迅速化と高度化を図ります。
		③IR 担当後継者の確保と育成を図ります。
		(2)内部統制、リスク管理機能の強化
		①庶務・管財要員を計画的に育成します。
		②ICT 企画推進サポート室の稼働を開始し、課題の解決を図ります。
		③大学事務室、広報室の運営安定化をサポートします。
		④総務部長が内部監査担当を兼務し、監事と連携のうえ、投資案件、リスク対応事案を中心とした
		監査を継続します。

No	施策種類	事業計画
		(3)意思決定の迅速化
		①大学・短期大学の事務長・一部組織の一本化による意思決定の迅速化と業務の効率
		化を図ります。
		②ICT 企画推進サポート室の新設によるノウハウの拡充と人材の共有化を実施します。
		③e 経費システムのバージョンアップに伴い、入力方式や承認フローの簡素化を検討しま
		す。
7	広報	(1)戦略的広報体制の確立・展開
		①次期中計策定に向けた教職員アンケートを実施します。全教職員に対し、中計目標の
		意識づけと広報活動への主体的取組みを促します。(1. 重点取組み課題とリンク)
		②全学広報委員会の運営安定化をサポートします。
		③全学広報担当と大学募集広報室、各校園広報担当者間の情報交換、連携を継続しま
		す。
		(2)情報公開
		①私学法や補助金助成基準を上回る HP 開示項目の拡大を図ります。
		②図表・グラフ等による開示内容の充実を図ります。
		③校園別財務情報の教職員向け開示を実施します。
8	その他	(1)外部評価機関の活用
		①大学自己点検評価における財務・ガバナンス部門を担当します。
		②短期大学認証評価全般をサポートします。
		(2)施設の適切な管理
		①高校本館トイレの増設、小学校校舎リニューアル等について優先順位を踏まえつつ、
		検討を開始します。
		(3)危機管理と防災対策
		①本館外壁タイルの打診検査、防火設備の更新など、定期点検を実施します。
		②高等学校体育館の雨漏り対策工事を実施します。
		③校地譲渡に係る設備解体工事から道路竣工まで、安全対策として仮設フェンス等を設
		置します。
		(4)キャンパスの総合整備
		①校地譲渡に向けた計画策定と進捗管理、安全管理を行ないます。
		②高等学校授業料改定にリンクする総合ホール食堂リニューアルの検討を開始します。
		(5)社会貢献・文化活動の推進
		①新型コロナウィルス感染症が鎮静化した場合、各校園の大東市・四條畷市との連携活
		動について設備や人員、資金面のアシストを再開します。
		(6)同窓会等との連携強化
		①新型コロナウィルス感染症が鎮静化した場合、PDK 活動を再開と活性化をアシストしま
		す。

^粪四條畷学園

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1)建学の精神・教育理念・教育目標および3つのポリシーの浸透
		①アセスメントポリシーの策定
		②アセスメントテストの導入
		③入学時オリエンテーション・各学年ガイダンスで建学の精神・教育理念・教育目標および3
		つのポリシーを周知徹底
		(2)入学定員・収容定員の確保
		①入学定員の確保…リハ:最低80名、看護:80名以上と偏差値アップ
		②退学率を15%以下に抑制
		③アセスメントテストを参考に学修カルテ作成、個別指導の充実
		(3)国家試験合格率 100%の達成
		①能力別個人指導の徹底
		②リハ:模擬試験 1 年実施による国試受験準備体制の早期化
		(4)ブランド構築のための施策立案継続
		①Web 出願導入等の入試改善継続
		②現 HP の(短期)部分改善、(中期)業者変更を含む抜本的改善の検討開始
		③初年次教育、能力別クラス、特色ある科目・カリキュラムの開発
		④大学・卒業生相互ネットワークの構築
		⑤看護学部主導で大学院構想検討
		⑥ベトナムの大学との交流推進、海外研修の内容改善
		⑦大学の将来像の検討…医療総合大学化の可能性、他大学との提携・統合、大学名称の
		変更他
		⑧大学の新キャッチコピー等の新設
		(5)大学認知度向上のための戦略的広報活動の展開
		①広報課組織を見直し、大学・短大協働広報体制を確立
		②大学認知度向上のための広報企画力の強化
		③効果的広報渉外活動の推進(含む実践教育センター活用)
		④学内情報収集力と対外発信力の強化
		(6)実践教育センターの有効活用
		①高校生に対するキャリア説明を看護師から理学・作業療法士にも拡大
2	教育制度改正への対	(1)入試方法の改善
	応	①志望者増につながる指定校の見直し(理学・看護:拡大、作業:限定)
		②Web 出願の導入
		③入試変更点(Web 出願、日程変更)の円滑な実施

No	施策種類	事業計画
		(2)カリキュラムの継続的改善
		①学部カリキュラム検討委員会を定期開催し、特色ある科目の開発を検討
		②(看護)指定規則変更の円滑対応
3	教育内容・水準の充実	(1)入学前教育の充実
		①現行入学前教育(東進ハイスクール)の評価・課題分析・改善
		②相乗効果のある通信教育と集合研修の実施方法(オンライン含む)を検討
		(2)初年次教育の充実
		①両学部の初年次科目の統一化を推進
		②(リハ)模擬試験 1 年次実施による国試受験準備体制を早期化
		(3)学力差を前提とした学生満足度が高い教育
		①アセスメントテストと個人学修カルテ導入による個人指導を徹底
		②2022 年度に能力別クラスを導入
		③成績優秀者を対象にチャレンジャブルな教育機会(ゼミ形式)を提供
		④優秀な学生をスチューデント・アシスタント(ST)やメンターとして育成する制度の導入を検討
		(4)国際交流の推進
		①ベトナムの大学との交流推進
		②海外研修の内容改善
		(5)自己点検報告書の作成
		①新型コロナウイルス感染症対策を嚆矢としてリモート機能等による新教育システムの構築を
		検討
		(6)自己アセスメント体制の確立
		①自己点検報告書の作成
		②自己点検評価委員会定期開催により「教育の質保証」チェック体制を充実
4	教育力向上	(1)教員評価制度の導入
		①試行結果の評価と改善点検討
		②処遇への反映方法を検討
		③教育面評価のバックデータとして「ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)」の応用
		を検討
		(2)FD·SD 活動の充実
		①授業評価アンケート結果の分析と授業改善へ連動を推進
		②非常勤講師と連携を高め、教育水準、授業手法、成績不振者への支援方法等を標準化
		③全教職員が外部(講師)の FD·SD 研修会(リモート開催を含む)に半期に少なくとも1回以
		 上参加し、有益な情報を共有化
		④IR 担当者が定期的に外部研修に参加し情報を収集・共有化

No	施策種類	事業計画
		(3)学修の質向上のためのツール導入の検討
		①アセスメントテストの導入と有効活用
		②各種アンケートのタイムリーな実施と有効活用
5	学生の学修モチベーシ	(1)学生・保護者への支援
	ョン向上	①アセスメントテストを導入し、カリキュラム改善や個人指導に活用
		②新入生、在学生、卒業生、既卒生等へのアンケート実施体制を改善し、結果を可能な限り
		HP 上に公開
		③保護者との教育懇談会を充実
		(2)学生との意見交換の活用
		①「学生の声」や学生との意見交換会(年1回以上実施)での意見を大学運営に反映
		(3)在学生と卒業生の定期的交流の場を構築
		①対面、オンライン、掲示板等を活用した交流の場を設置
6	研究活動の活性化	(1)健康科学研究所・研究支援資金の活用
		①研究支援資金の多様な有効活用方法の検討
		②研究支援資金応募を奨励し、外部研究費獲得につなげる
		③研究成果の対外発信を積極化
		(2)研究機器の更新推進
		①科研費間接費や補助金等を有効活用し、経年劣化・陳腐化した研究機器更新
7	教育・研究基盤の整備	(1)学内教育環境の整備
		①図書館検索システム(学外リモート検索を含む)の更新
		②「学生の声ボックス」等による学生の要望への適切な対応
		(2)補助金による学修環境の整備
		①「教育の質」のポイントアップ
		②改革総合支援事業「タイプ1」等の採択
		(3)実習施設の開拓
		①既存実習先とコロナ渦を考慮した関係強化
		②新規実習先の継続的開拓
		③(リハ) 臨床実習指導者講習会の円滑な実施
8	社会貢献·文化活動推	(1)地域住民との接点
	進	①コロナ禍収束後、公開講座及び「畷学ラポール」の再開
		②スポーツ活動相談支援室を核としたスポーツ関連の地域貢献を新たに検討
		(2)行政との連携
		①「北条まちづくりプロジェクト」・「四条畷駅前再開発事業」への参画
		②「介護予防センター」の設立検討
		(3)地域の企業との連携
		①「介助犬のひろば in 大東」や「ユニバーサルマップ作成」の再開に協力

No	施策種類	事業計画
		(4)府下大学と連携
		①可能な限り大学コンソーシアム活動に参加し、情報交換や協力関係を強化
		(5)施設の開放
		①他機関から要請があれば会場として積極的に提供
9	進路支援·就職支	(1)国試対策及び就職支援の強化
	援·卒業生支援	①模擬試験や過去問ソフトを効果的に活用
		②学生の進捗レベルに対応した個人指導を徹底
		③1 年生から国家試験を意識付け
		④特別聴講生制度を有効活用
		⑤(看護)保健師、助産師、大学院進学等の進学相談の充実
		(2)卒業生支援の強化
		①卒業生の情報データベース構築・ネットワーク化を推進
		②卒業生向け「学術講演会」やホームカミングデイ定例開催による卒業生組織化
10	学生等募集対策	(1)効果的な学生募集の推進
		①広報課組織を見直し、大学・短大協働広報体制を確立(合同で職業説明会の開催を計画)
		②広報企画力の向上
		③効果的な渉外活動(実践教育センターの積極的活用を含む)
		④指定校見直しと有効活用
		(2)オープンキャンパス参加者数と受験率の改善
		①周知・実施方法等の多様化に対応し参加数を増加
		②前年度参加者アンケートを活用したプログラムの改善
		③オープンキャンパス参加者の低学年化に対応した内容の工夫
		④授業公開型OC(旧WCV)の円滑な実施
		(3)Web 広告等の強化
		①ホームページ抜本改定の検討開始
		②戦略的 Web 広告の実施
		③新大学案内とホームページ掲載の連携
		(4)高校訪問の強化
		①効果の観点から指定校・高校訪問先を見直し
		②高校訪問やガイダンス等の役割分担見直しによる効率化
		③実践教育センターによる近隣重点校とのリレーション強化をリハビリテーション学部にも拡大
		④高校生に対するキャリア説明会を大学・短大で共同開催
		(5)高大連携の強化
		①学園高校進路指導部との連携を強化し、内部進学数(各学部専攻各 5 名以上)を安定的に
		確保
		②学園中学校以下へ大学説明を積極化し「総合学園」をアピール

No	施策種類	事業計画
11	災害対策等への取組	(1)コンプライアンス管理体制の整備
		①コンプライアンス関連 e-Learning 積極的実施
		②風通しのよい組織運営により、 リーガル・ハラスメントリスク低減
		(2)リスク管理体制の強化
		①ヒヤリ・ハット報告をリスクの所在や防止対策共有化に活用し、リスク予防体制を強化
		(3)危機管理体制の強化
		①ステージ毎に新型コロナ対策を適切に実施
		②コロナ禍収束後に防災訓練実施
		③受動喫煙防止のため「全面禁煙宣言」遵守をガイダンス等で徹底
12	その他	(1)事務の効率化
		①大学と短大で事務共有・効率化
		②事務部門の計画的人材育成
		③事務部門の企画力向上
		④GAKUEN システム運用ノウハウ共有化推進
		(2)SD 活動の推進
		①内部・外部の SD 研修会に積極的に参加し、情報共有を推進
		②IR 担当者は少なくとも前後期に 1 回以上外部研修会に参加

※四條畷学園

短期大学

No	施策種類	事業計画
1	重点取組事項	(1)募集活動の強化
		重点エリア・指定校への効果的な活動により、募集定員180名
		(保育100名、ライフ80名)の入学者を安定的に確保します。
		(2)教育の質の向上
		カリキュラムの定着に向けた取組のもと、学ぶ喜びを体感させ、より早い段階から進路活動
		のサポートを行う等、教育の質の向上に努めます。
		(3)学生支援
		学生の学びの状況等把握に努め、親身な生活・学習面のサポート、保護者との密な連携
		等により、休学・退学の可能性がある学生に対し丁寧な対応に努めます。
2	教育内容・水準の充実	(1)共通
		コロナ禍の中において、面接授業と遠隔授業を効果的に活用する等、ハイブリッド型による
		適切な授業運用を通して、学生の学修機会の確保と感染防止対策の徹底を図る。質の向
		上を目指します。
		①「課題発見・対応能力」を高めるため、アクティブラーニング等の教育ツールを積極的に
		活用し、コミュニケーション能力の向上に努めます。また、必要な教養・知識を備え、主体的
		行動ができる人材を育成します。
		②学生の満足度が高く、質の高い教育を提供します。
		ア. 新入生全員に「入学に至る意識調査」を実施し、学習意欲や短期大学への期待を把
		握し、入学直後の指導を充実します。
		イ. 到達目標達成評価表(ルーブリック評価法)の運用や評価方法等について、評価者の
		理解力を高め、カリキュラムの改善について検討します。
		ウ.「授業評価アンケート」の実施、結果を踏まえ、「授業の質の向上」を図ります。
		③「文科省ガイドライン」に沿った短期大学における新たな3つのポリシー(ディプロマ・ポリシ
		ー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)の定着を図り、PDCA 機能の強化を図り
		ます。
		④アセスメント・ポリシーに従い、学修成果を機関レベル、教育課程レベル、科目レベルで査
		定し、適正であるよう努めます。
		(2)保育学科
		①ピアノ等のマンツーマン指導による「音楽教育」、幼児を魅了する感性を磨く「美術教育」
		等の魅力ある教育を目指し、競合他校との差別化を図ります。
		②「指定園」の見直し、取組み強化を検討します。実習先との意見・情報交換の機会を増
		やし、事前・事後学習の内容を改善に努め、実習内容の一層の充実を図ります。

No	施策種類	事業計画
		(3)ライフデザイン総合学科
		現実社会に対応し生き抜く力を育成します。社会や学生のニーズを的確にとらえ、授業内容を
		工夫し、各学生が「自分の適性」に気づく教育を行います。また、各スキルと就職先・キャリアパ
		スの関連を具体的に例示し、主体的にライフデザイン(人生設計)を描く能力を高めます。
3	教育・研究環境の充実	(1)「なわてドリル(e-ラーニング)」の内容見直しにより、基礎学力の向上に努める。基礎学力
		とSPI能力の連動性や対象科目の変更等を検討し、充実に努めます。
		(2)ICTの活用の1つとして「eBook」による図書館の充実、24時間化を推進します。
		(3)科研費取得目標を300万円とします。
4	教育・研究基盤の整備	(1)教育提携の在り方について、社会情勢や学生ニーズを踏まえ、学びやすい環境について
		検討します。
		(2)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を通して、地域と協働の研究
		基盤の整備、検討に努めます。
		・四條畷市との連携事業において、実践・研究の質を高めます。
		・大東市との連携強化、施策などの見える化に努めます。
5	社会貢献・文化活動の推進	(1)地域住民および企業のニーズ等実態把握に努め、求められる「社会人教育」について検
		討し、地域に貢献します。
		・社会人リフレッシュ講座の新規講座の開講に向けて地域ニーズの把握に努め、参加者の増
		強を目指します。
		(2)地域・大学と連携し、各種ボランティア活動を通して地域との接点を強化します。
		(3)教育に関する最新情報の提供や職場での悩みに対する助言を行う等、地域に貢献しま
		す。
		・大東市・四條畷市・門真市の各種委員会への教員派遣
		・地域の幼稚園・保育所等に出向き、情報交換
6	内部進学	(1)学園高校向け説明会等で、学びと将来の就職先が具体的にイメージできるよう模擬授業
		の内容や説明に工夫し、本学に対する理解を深めます。
		(2)高校・短大を通じて継続的に挨拶やマナー等の基本を教育する仕組み(情報交換、定期
		的な協議会)を構築し、「社会適応力」を高めます。
7	進路対策·就職対策	(1)各種業界等が主催する「就職フェア」等への積極的参加を促し、サポートに努めます。ま
		た、就職先の求人状況等実態把握に努め、新たな就職先の開拓に努めます。
		(2)大学編入希望者の個別相談に応じ、適確な支援を行い、「大学編入」の実績を上げ、就
		職以外の選択肢をアピールします。
		(3)卒業生のネットワークを活用した懇談会等による卒業生と学生相互間の交流の機会を増
		やし、学生の就職意欲の高まりや就職先の開拓に繋げます。また、学生の就職活動に係る保
		護者説明会を開催します。
		(4)「公務員対策講座」の実施方法・内容を工夫し、参加者・出席率を向上させ、公務員志
		望・適性のある学生を支援します。

No	施策種類	事業計画
8	学生募集	(1)重点エリアならびに高大連携高校をはじめとした重点指定高校へのきめ細やかなアプロ
		ーチのもと、出前授業等の対応強化を図り、効果的な募集活動を行うことで、オープンキャン
		パスへの参加者増強に努めます。
		(2)2020 年度から導入となった新たな入試改革において文部科学省の趣旨を踏まえて制
		度の改善・定着に努めます。
		(3)学校案内、短期大学ホームページの広報媒体を通じて短大の魅力を伝えるべく、発信
		力(わかりやすさ・見やすさ等)の強化、改善に努めます。
		(4)模擬授業や短大生の実体験紹介を増やす等、学生の顔が見えるオープンキャンパスに
		変革します。
9	災害対策への取組	(1)「危機管理マニュアル」に基づき、防災訓練を実施する等的確な災害対策、対応ができ
		る体制の確立を目指します。
10	その他	(1)第三者認証評価の活用による態勢強化
		令和 3 年度短期大学認証評価校決定を受け、書面・訪問調査による「適格」認定を取得す
		る。また、指導事項等を踏まえ、教育研究、組織運営、施設設備、財務等の体制整備に努
		න ්ති
		(2)事務品質の向上
		コンプライアンス遵守を土台とし、多能化や業務の効率化を進めるとともに、リスク管理を強化
		します。
		・円滑な学生対応に向け、事務品質の維持・向上に努めます。
		・外部研修会への積極的な参加により知識の向上、事務プロセスの改善に繋げます。
		・業務ミスやトラブル、ヒヤリハットを迅速に報告、問題点や対応策を教職員が共有し、リスクに
		係る意識の強化、定着に努めます。
		(3)事務部門では、短大と大学の連携を密にし、共通化できる項目を検討する等、事務効率
		化を目指します。
		·広報活動
		·就職支援

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1 建学の精神と	(1)理念・方針にもとづく教育	年度の初めに、各学年・各校務分掌で、教育理念・教育方針を踏ま	目標や計画の重要
教育理念に基づ	計画の再構築	えた指導目標・教育活動計画を策定し、その目標の実現に努めま	性から教員の自己
く学校経営計画		す。	評価平均 4.0(前年
及び教育計画の			3.8)以上を目指しま
策定·実践			す。
	(2)教職員の資質向上と学校	①学園の特徴を前面に打ち出し、2022 年度からの新学習指導要	①は自己評価
	運営体制を改善・整備	領実施に向けて取り組みます。	3.8(前年 3.5)、②・
		②教員の「授業力」向上のため、研修・会議・委員会・公開授業を活	③は 3.7(前年 3.5)
		用し、教育課題や指導方法について話し合い有効な実践につなげ	以上を目指します。
		ます。	
		③より良い教育実践のために、教員間のコミュニケーションや連携を	
		図ります。	
		④一貫コース・自分プロジェクトや発展キャリアコース・マイプロジェクト	
		の発表内容である、地域や企業連携としたPBL(問題解決学習)の	
		取り組みを他のコースにも広げていきます。	
2 高校生に求	(1)主体的・対話的で深い学	①基本的な知識・技能の習得のために分かりやすい授業改善に取り	①は自己評価
められる学力及	び(AL授業)の実践	組み、内部での授業公開を定例化します。	4.0(前年 3.9)、②は
び態度・諸能力		②思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行います。	4.0(前年 3.7)、③は
の基盤の養成		③課題解決能力を養うためのAL授業を実践します。	3.7(前年 3.4)以上
			を目指します。
	(2)集団・社会に貢献できる態	①基本的な生活習慣・態度・マナーを身につけるための指導をしっ	①は自己評価
	度·実行力	かり行います。	4.0(前年 3.9)、②は
		②クラス活動や行事活動を通して、協働や責任感などの社会性を	4.0(前年 3.7)以上
		身につける指導を行います。	を目指します。
	(3)部活動を通して心身の鍛	①短い活動時間で集中し、技術や精神力など自らの心身を主体的	総合的に①・②は自
	錬	に鍛える指導を実践します。	己評価 4.0(前年
		②協調性や行動力など社会性を身につけるようチームワークを重視	3.9)以上を目指しま
		した指導を行います。	す。
	(4)市民性を育む教育	①18 歳の選挙権を見すえて、市民性・主権者意識を育む教育を実	①は自己評価
		践します。	3.5(前年 3.1)、②は
		②よりよい地域を目指したボランティア活動等の集団的、体験的な	3.3(前年 2.9)以上
		活動並びに地域活動への参加を推奨し、実践的学習を推進しま	を目指します。
		す。	
	(5)国際的資質を育む教育	海外からの研修生・留学生を受入れ、また、本校から研修生・留学	自己評価 3.8(前年
		生を派遣し、これからの社会で必要な国際感覚を育てます。	3.4)以上を目指しま
			す。

数四條畷学園

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3 人としての在り	(1)自己・他者が共により良く	①学年別にテーマを決め、多様な人権問題への適切な理解と態度	①・②・③いずれも
方・生き方を考	生きようとする態度	を身につける学習を実施します。	自己評価 4.0(前年
え、他者と共によ		②学級生活や活動を通して、多様な価値観を認め合い、仲間と共に	3.8)以上を目指しま
り良く生きていく		調和して生活しようとする態度を養います。	す。
ための人権意識		③年3回のいじめアンケートの実施等、普段から生徒の日々の様子	
の育成		をしっかり観察し、個人に応じたきめ細やかな指導を行います。	
	(2)一人ひとりのニーズに応じ	①様々な課題を抱える生徒一人ひとりをしっかり理解し、丁寧に対応	①は自己評価
	た指導	し支援を行います。	4.2(前年 4.1)、②は
		②生徒のニーズを把握し教職員が連携し、チームとして特別支援教	4.0(前年3.8)以上を
		育を実施します。	目指します。
4 進路目標の	(1)未来の目標を実現する能	①生徒が自分の興味・関心を知り進路目標を考える進路指導を行	①は自己評価
実現に向けて、	カ	います。	4.0(前年 3.9)、②は
未来を切り拓くキ		②職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施し、キャリア	4.0(前年3.8)以上を
ャリア教育・進路		教育を推進します。	目指します。
指導			
	(2)生徒の目標を実現させる	①進学や就職にかかわる進路情報を提供し、丁寧で個性に応じた	①は自己評価
	進路相談·支援	相談や助言を行います。	4.1(前年 4.0)、②は
		②生徒のニーズに対応した放課後・休業中の講習を実施します。	3.8(前年3.6)以上を
			目指します。
5 安心・安全な	防災・減災に向けた防災教育・	①マニュアルに沿った避難訓練、大阪880万人訓練等地震・津波・	①は自己評価
社会を築くため	訓練を実施	火災等、防災・減災に向けた訓練を実施します。	4.0(前年 3.8)、②は
の態度と行動力		②自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める学習を	3.8(前年3.5)以上を
の養成		実施します。	目指します。
6 内部進学の	(1)中高連携の強化	①中高連絡会議の内容の充実と、高校での教育内容の情報をしっ	学園中学校からの
強化	①中高連絡会議の充実	かりと中学生・保護者に提供します。	内部進学者数 50
	②内部進学増加のための具体	②学園中学の進路懇談会時、中学校舎内で進学相談ブース(高校	名(前年 3 年制専
	的方策の実施	教員が応対)を設置し、親切・丁寧な対応をします。	22 名、一貫 19 名)
	③高校の魅力ある教育の新た	③発展キャリアコースの魅力ある取り組み実践や、新コースの教育	を目指します。
	な実施の検討	内容を学園中学生に公開および説明することで、興味関心を深めま	
		す。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)高短連携の強化	①高短合同会議、高短連絡会を通して、高短の連携を密にします。	短大への内部進学
	①高短連絡会議の充実	②学園短大模擬授業に代わる試みで、就職と編入学の状況説明会	者数 80 名(前年保
	②説明会・体験授業等の新た	を実施します。また、内部進学した先輩方の社会人としての活躍をし	育 51 名、ライフ 33
	な方策の実施	っかり高校生に紹介し、内部進学の利点をアピールします。	名)以上を目指しま
	③進学増加の高校進路指導	③学園短大生の資格取得・就職状況をしっかり広報し、就職に結び	す。
	における新たな方策の実施	つけた内部進学の指導を行います。	
	(3)高大連携の強化	①高大連絡会議をさらに充実します。	大学への内部進学
	①高大連絡会議の充実	②志願者増加に向けた魅力ある説明会・体験授業等を実施しま	者数 15 名(前年看
	②リハビリ・看護進学増加の説	す。	護6名、リハ13名)
	明会・体験授業等の新たな方	③リハビリテーション学部・看護学部の内部進学事前相談会は、内	以上を目指します。
	策の実施	部進学者増加の一要因となっているので、継続して実施していただ	
	③リハビリ・看護進学増加の高	きます。また、大学体験授業を実施し、内部進学への理解を深めま	
	校進路指導における新たな方	す。	
	策の実施		

数四條畷学園

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7 生徒募集対	(1)募集・広報体制の整備	①人員・組織の整備・・・募集広報部メンバーと専従者2名が協力し、募	
策の強化		集体制をさらに強化します。	
		②活動計画の立案、実施・・・公立中学校への出前授業や高校選びの	
		講演をさらに積極的に打ち出します。また、高校訪問やクラブの合同練	
		習を希望する中学校を募集し、広報します。中学校訪問や塾訪問のマニ	
		ュアル作成と研修を実施します。	
		③活動予算の立案と効果的な実施・・・オープンスクールの周知方法や	
		協力してくれた生徒のモチベーションアップに繋がる特典を検討します。	
	(2)募集・広報戦略の改善	①募集の方法・手段・時期の効果的な設定・・・紙媒体の広告を減らし、	
		web 上やデジタルの広告へと移行します。	
		②活動対象に応じた戦略の立案、実施・・・学園動画閲覧サイトをより充	
		実させ、クラブ活動や学校行事等の生徒目線での動画をアップし、広報	
		します。	
		③活動内容・プログラム・PR ポイント・提供情報の工夫・・・HPを一新する	
		ことで、広報の充実を図ります。または、クラブの Instagram 作成を許可	
		し、日々の活動や戦績などを積極的に発信します。	
	(3)教育の特色の明確化	①各コースの特色強化と実績の向上・・・総合キャリアコースは「サービス	特技推薦によるクラ
		接遇検定」、発展キャリアコースは「論理言語力検定(リテラス)」、保育コ	ブ員 60 名(前年 51
		ースは「保育検定」それぞれの合格率の向上に努めます。	名)以上を目指しま
		②教育活動の充実と生徒の成長成果・・・AL授業の実践を進めます。ま	す。
		た、学期に1度の公開授業を行います。	
		③教育理念に即した人を育てる教育の実践として、「実行から学べ」をテ	
		ーマに全校生徒が参加して楽しめる企画を検討します。	
		④特技推薦(クラブ推薦)による生徒が増加する対策を引き続き行いま	
		す。	

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 建学の精	(1)私学の独自性	①職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理	①私学であるため教員による建学
神に基づく教		解·実践します。	の精神及び教育理念の理解及び
育の実践と私			実践が 4.2 です。
学としての独		②入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教	②諸式を通じて校長講話の中で建
自性		育理念について生徒に話をし、理解を深めます。	学の精神や教育理念等の内容をわ
			かりやすく説明します。
			(令和2年度生徒 4.2)
		③教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」	③生徒指導部の月間目標に教育
		「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動	方針の内容を取り入れ、生徒に啓
		を通して、人格形成を図ります。	発を行います。
			(令和2年度生徒 4.2)
	(2)生徒のニ-ス・に対応	①授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより	①1年生は発展探究・発展文理の
	した教育活動	良い指導を行います。	2つのクラス編成により、新しい教育
			活動を行います。また、2.3年生
			は、それぞれのコ-スの特徴を理解
			し、コ-スの取組に満足しているかの
			設問を行います。
			令和3年度開講であり、それぞれの
		【1 年生】	クラスの理解に努めます。
		②発展探究クラスは、「総合的な探究学習」を取り入れ、	②(令和2年度 生徒 4.1 保護者
		探究活動を通じて協働し自ら発信する力を養い、将来の進	4.2)
		路を自ら実現させます。	③(令和2年度 生徒 4.5 保護者
		③発展文理クラスは、日々の確認テストやハイレベルな目	4.3)
		標設定を通じて、自ら応用的な内容まで学ばせ、よりハイレ	
		ベルな進路実現へのニーズに対応します。	④(令和2年度 生徒 4.2 保護者
		【2·3 年生】	4.3)
		②英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコー	全コ-スの平均 令和2年度 4.2 と、
		ス。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図ります。	それぞれのコース理解が浸透してき
		③英数発展コースは、夏期講習などで応用的な内容まで掘り	ました。
		下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニース゛に応	
		えます。	
		④6 年一貫コ-スは、総合的な学習の一貫である「自分プロジ	
		ェ外」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの	
		社会で活躍できる人材を育成します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(3)進路指導	①生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供	①生徒の将来を見据え、進路情報
		するため、3 年時 2 回の進路がイダンスを行います。	の提供や進路ガイダンス(令和2年度
			4.4)を行います。
		②自分の進路について主体的に考え、そのための進路を	②探究活動を通じて、自ら考え、進
		選択できる力を育みます。(1年)	路選択できる力を養成します。
		③個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期	③個々の生徒に応じた目標を実現
		より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行います。	させるよう、進路相談や進路支援を
			行なっています。令和元年度は 4.3
			と目標値をクリアしました。

【学習指導·人権教育】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 学習面に	(1)教科指導	①各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を	①教員によるシラハ、スに沿った指
おいて、きめ		取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業	導、グループ学習や AL を取り入れ
細かい指導を		改善に取り組みます。	より一層の充実を図ります。目標を
行い確かな			4.0 以上にします。(令和2年度 4.1)
学力を育成		②ICT 機器を積極的に利用し、分かりやすい授業を目指	②教員による授業に創意工夫を行
するとともに、		し、創意工夫を行います。	い、分かりやすい授業の展開の目標
人権を尊重			値を 4.5 にします。(令和2年度 4.2)
する学校づく			生徒・保護者による授業は分かりや
Ŋ			すいか。(令和2年度 生徒 4.1 保
			護者 3.9)との開きがある、生徒保護
			者の目標値を 4.2 以上に設定しま
			す。
		③学力の向上と定着をめざすため、早朝学習·放課後学習	③教員による生徒の学力向上・学
		(自習室活動)・休暇中の講習を実施します。	習の遅れている生徒への支援を
			個々の生徒の実態に合わせて行な
			っています。(令和2年度 3.8)と 0.2
			ポイント評価が下降しました。
			生徒・保護者による生徒の学力
			向上への努力の数値は(令和2
			年度 生徒 4.3 保護者 4.0)とな
			っています。
			生徒・保護者による生徒の学力
			向上への意欲が低く(令和2年
			度 生徒 4.1 保護者 3.7)4.0 を
			目標とします。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
		④自らの課題に向けて考え、協働し、学習意欲を高めるた	④探究活動を通じて、生徒が「主体
		めに探究活動を実施します。(1年)	的・対話的で深い学び」を実現し、
			様々なことに興味・関心が持て、学
			びに意欲が得られるようになることを
			目標とします。
2. 学習面に	(1)人権教育	①「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、	①教員は周囲の人を尊重し、よりよ
おいて、きめ		人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の	い人間関係を築いていく態度を養う
細かい指導を		学校生活すべての活動を通して人権教育を行います。	教育を実践していますが(令和2年
行い確かな			度 4.4)と高評価です。
学力を育成		②いじめ等の予防、早期発見のため各学年、日直面談を行	②生徒・保護者による教員の「いじ
するとともに、		い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育て	め」の対応は適切か(令和2年度
人権を尊重		ます。	生徒 3.8 保護者 3.8)と低い、目標
する学校づく			は 4.0 以上と設定します。
IJ		③障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と	③教員は人権に係わる様々な
		平和学習(2 年)、総まとめと進路について(3 年)と学年	問題に関心を持ち、人権意識を
		毎にテーマを決め人権教育を行います。	高める教育を実践します。(令和
			2年度 4.3)
		④12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実	④人権講演や道徳的な行事につい
		施します。	ては(令和2年度 生徒 4.4 保護者
			4.0) 生徒の満足度も上昇し現在の
			人権教育を継続します。

【学校生活】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 基本的な	(1)生活指導	①個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生	①教員による、規則を守らせる指
生活習慣の		活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活におけ	導·挨拶·礼儀を重んじる目標は 4.5
確立を行うと		る社会性を身につけさせます。	以上(令和2年度 4.1)と昨年と同じ
ともに、安全で			でした。生徒・保護者による教員の
安心な学校			規則を守らせる指導(令和2年度
づくりと生徒へ			生徒 4.4 保護者 4.1)と高評価で
の支援を行			す 。
う。また、学校			
行事を通じて		②重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、乗車	②(令和2年度 生徒 4.0 保護者
豊かな人格		マナーの啓発や挨拶運動を実施します。	3.8)と評価が低く、生徒会を中心に
形成を行う。			積極的に挨拶運動を行い、学校月
			間目標により、さらに啓発を行いま
			す 。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(2)危機管理と情報公	①教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を	①安心・安全な学校を目指すには、
	開	持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざ	危機管理マニュアルの整備(令和2年
		します。また、災害に備えて備蓄品を整えます。	度 4.4)及び、緊急時の警察、消防と
			の連携・訓練等の学校安全対策は
			(令和2年度 4.2)はどちらも良い評
			価ですが、4.5以上の目標が必要で
			す。
		②情報モラル講演会などにより、スマートフォン・タブレットな	②情報機器の正しい使い方では
		どの情報機器の正しい使用法を習得させます。	(令和2年度 生徒 4.3 保護者
			3.7)と保護者が生徒に対する信
			頼が低いようです。
		③学校ホ-ムページの公開掲示板等で可能な 範囲の教育	③情報公開については、ようやく保
		活動や情報の公開を行います。	護者の満足度が 4.0 になりまし
			た、(令和2年度 生徒 4.1 保護
			者 4.0)4.2 以上を目指します。
	(3)学校行事や部活動	① 社会性や協調性の育成のため、部活動を奨励します。	① 説明会やガイダンスなどで、部活
			動の参加を奨励します。(令和2年
			度 生徒 4.3 保護者 3.9)
		② 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、	② 多彩な行事の中で、協調性を
		耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させます。	持ちながら主体的に行動できる生
			徒を育てます。(令和2年度 生徒
			4.3 保護者 3.6)
		③ 全クラスでさまざまな行事と探究活動を結び付け、	③ 主体的に活動し、協働し、
		発展探究クラスでは「探究」授業を充実させます。(1 年)	表現できる生徒を育てます。
	(4)課題を抱えている	①生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を	①日頃、担任は日直面談等きめ細
	生徒への支援	行います。	かい相談・支援を行なっていま
			(令和2年度 4.2)
		②問題解決の部署として ICP(臨床心理研究所)の存在の	②生徒の個人面談等の満足度は
		明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努めます。	低い。(令和2年度 生徒 3.9)4.0
			以上を目標とします。

※四條畷学園

【社会貢献】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 保護者·	(1)保護者·同窓会·後援	①保護者と協力しPTA 活動を活発にするとともに、保護	①保護者から見る PTA 活動は(令
同窓会·後援	会との連携をすすめるとと	者·同窓会·後援会との連携し、文化祭·体育会などの活	和2年度 保護者 3.6)目標値に近
会との連携と	もに、地域の社会活動に	動を支援します。	づけるよう活動を支援します。
社会貢献	協力する。		
		②生徒会活動を通して復興支援やボランティア活動等で	②生徒から見る生徒会活動は(令
		地域に協力します。	和2年度 生徒 4.2)と昨年同様目
			標値に達しています。

【生徒募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 生徒募集	(1)外部入試説明会は、	①生徒によるクラブ紹介やプレテストを実施します。	①第4回説明会参加者数 300名
対策	新しい内容を取 り入れさ	また、発展探究・発展文理クラスの活動を紹介し、より一	以上を目指します。
	らに充実を図り、より多くの	層の理解と共感を得るように工夫します。	
	受験者の確保に努めま		
	す。		
	(2)小中連絡会などを通	①中学校紹介・進路相談コーナーなどを設置し、公開授業・	②内部進学者 70%以上を目標と
	じて内部小学校との連携	体験授業などへの児童の参加を勧めます。本校の探究	します。
	充実に努めます。また内	活動のあり方を理解してもらうよう努力します。	
	部進学者数		
	の増加に努めます。		
	(3)中高連絡会などを通	①各教員が内部高等学校の教育内容を十分に理解す	③内部高校への進学者 50 名以上
	じて内部高等学校との連	るように努力します。	を目標とします。
	携充実に努めます。		
	(4)高校進学実績を強化	①生徒が自主的・主体的に選択できる、他私立学校にな	④特待生による優秀な生徒を獲得
	します。	い進路指導、行事、部活動や探究学習の内容を内外の	し、相乗効果により全体の進路指導
		説明会等で発信します。	強化を目指します。
	(5)3 年コ-ス(英数・英数	①今後も継続して進学指導の強化に努めます。	⑤安定した募集を目指します。進学
	発展)の高校進学実績の		実績を高め募集力をつけます。
	外部評価を維持します。		
	(6)ホ-ムペ゚ージの充実	①受験生、保護者等に四條畷学園の魅力をわかり	⑥本学の教育の特長を説明す
		やすく伝えます。	る等ホ-ムペ-ジを充実させます。
			また、Facebook による情報発信を
			一層充実させます。

【学校全体】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. (1)選び抜	(1)「指導要領プラス」	①講師(指導助言者)を招聘して複数回の校内研究	指導力向上に関する教員自己評価を
いた内容の実	をスローガンとしたカリキ	授業を計画実践し、今後の研究の深化に役立てま	4.3 以上にします。(令和2年度 4.3)
践と改良	ュラム・教材/教具を	す。	
	模索、実践しその効果	②長期休業中の校内研修日を活用し、職員の合同	
	を検証します。	研修を計画ます。	
		③次回開催の公開授業研究会を視野に入れ、校内	
		研究授業を計画実践し、今後の研究深化に役立ま	
		す。	
	(2)1~6年生の英語カ	①昨年度再編した1~6 年生のカリキュラムと教材	
	リキュラムと教材を開	を、より充実させるために改善を加えます。	
	発、研究します。	②5・6 年生の英語が教科になることに伴い、新たな	
		教材や教授法を研究、開発します。各児童に英語学	
		習機材をもたせ(シャープ英語辞書に入っているアプ	
		リ・ブレーン)、個別学習を実施します。	
		③英語専科教員を中心とした英語科研究体制を構	
		築します。	
		④1~6 年生まで通したモジュール学習の教材の指	
		導法を検討します。	
		⑤私立小学校連合会英語部会主催の「小学生レシ	
		テーションコンテスト」に参加します。	
		⑥英語の教科化に対応した絶対評価(Can-Do List	
		に適応した)を導入します。	
	(3)ICT 教育の拡充に	① ICT 研を軸とした研究組織を作り、現行の学習に	
	むけ、プログラミング教	プログラミングを加味した教材「K00V」を導入し、実	
	育とGIGA 構想に基づい	践します。	
	た教材を開発、研究し	②タブレットを用いたグループワークやペアワークの方	
	ます。	法を研究します。	
		③ズームやクラスルームなどのアプリを使った、リモー	
		ト学習の充実を図ります。	
		④始業式や終業式、職員会議など、機会を見つけて	
		もズーム等を使い、職員がアプリを自由に使えるよう	
		習熟を図ります。	
		⑤各教科研で、タブレットによる学習の方法や教材を	
		研究、実践します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
	(4)科学の学習内容を	プレゼンテーションを中心とした説明と、討論を要約	
	見直します。	するための黒板使用を組み合わせた、授業運営を研	
		究します。	
	(5)社会科のカリキュラ	独自のカリキュラム、「価値判断授業」を全学年に導	
	ムを改善します。	入します。	
1. (2)学校行	(1)全校行事を改良し	保護者や児童の意見をもとに、体育会、秋まつり、音	保護者、児童アンケートのうち、「行事は
事の見直しと改	ます。	楽会などに改良を加えます。ヤングアメリカンズにか	楽しく充実している」の評価を向上しま
良		わる行事を検討します。	す。
	(2)宿泊行事を見直し	新型コロナウイルス感染症拡大防止を念頭に置き、	
	ます。	すべての宿泊行事を精査します。	
		修学旅行の充実を図るために、旅行先を含めた検討	
		を行います。	
2. (1)基本的	(1)児童の自主性・主	①縦割り活動や児童会を通じて、児童自身が校内の	主体性に関する教員自己評価を 4.1 以
生活習慣の育	体性がより発揮できるよ	マナー向上策を考えられるように活動形態を整備し、	上にします。(令和2年度 4.1)
成	う、児童委員会・係活	活性化を図ります。	保護者、児童アンケートのうち、「児童会
	動・縦割り活動、行事の	②児童会活動のシステムを、さらによきものになるよ	活動や係活動をがんばっている」の評価
	内容を再検討します。	うに検討を加えます。特に児童会主催のボランティア	を向上します。
		活動を奨励します。	
	(2)規律遵守の意識レ	①特に言葉づかいと姿勢について、教員が範を示し	マナー・モラルに関する教員自己評価を
	ベルの向上を図ります。	児童が見倣うことのできる機会を積極的に増やしま	4.2 以上にします。(令和2年度 4.2)
		す。年度末にマナーに関する自己評価の時間を設定	保護者、児童アンケートのうちしつけに関
		し、フィードバックをうながします。	する3項目の平均(4.0以上)を維持しま
		②登下校のマナー向上のため、職員が交替で通学	す。
		路に立ち、児童の直接指導に当たります。	
		③職員が交代で毎土曜日に四条畷駅に行き、乗車	
		マナーの指導に当たります。	
		④校外行事の日、校内に訪問者が来る日を『マナー	
		実践の場』と児童に意識させ、実際の場に応用する	
		機会を作ります。	
		⑤年度初めに各担任が「学校のきまり」を児童と保護	
		者に説明し、理解と協力を求めます。	
		⑥マナー、しつけについての学期目標を定め、児童と	
		教員に周知しその徹底を図ります。	
		⑦「自律の手助け」を念頭に置き、各家庭及び学級	
		に配布する「しつけポスター」を指針として家庭と学校	
		が協力し、指導を行います。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
2. (2)基礎学	(1)主体的・対話的な	①学年教科研究を研究の軸としてアクティブラ	学力向上に関する教員自己評価を 4.5
力の徹底	深い学びを実践します。	ーニングが機能するように教科内容を精選しま	以上にします。(令和2年度 4.5)
		す。	
		②高学年児童を中心として、個別にタブレットを	学力テストの、国語の観点別評価項目
		駆使して調べ学習ができるような指導を充実し	「書く能力」をすべての学年で一昨年度
		ます。	以上に引き上げます。
		③児童相互の意見交換を軸とした学習を実践	
		します。そのためにまとめた児童のノート、WS 類	
		を校内研究会で研究の対象にし、招聘した講師	
		の指導助言を受けます。	
	(2)基礎学力の均一化	①「読む」「書く」の繰り返し練習により「話の要旨	学力テストの、国語の観点別評価項目
	を図ります。	を的確に把握して、その内容を理解できる」ため	「聞く能力」をすべての学年で一昨年度
		の基礎となる知識、特に語彙力を増やします。	以上に引き上げます。
		②統一確認テスト等の学力テストで、基準とする	
		値に達していない児童を抽出し、学級担任およ	
		び学年補助教員が対象児童の学力向上に努め	
		ます。次年度の学力テストでその成果を再調査	
		し、指導方法が有効であったかを検証します。	
		③学カテスト対策委員会を立ち上げ、月1回基	
		礎学力向上にむけた話し合いを持ち、合わせて	
		模擬テストを実施します。	
	(3)教員の指導力向上	①タブレット等を活用した、個に応じた指導法の開発	計画的な教員研修に関する教員自己評
	をはかります。	に努めます。	価を4.0以上にします。(令和2年度4.0)
		②学年主任を中核とした OJT を推進し、若手教員の	
		授業力や児童理解力、学級経営力の育成の日常化	
		を図ります。	
		③学年内でお互いに授業を公開し合い、授業力向上	
		と学年内での指導方法の統一を図ります。	
		④研究授業を増やし、相互の実践を対比することで	
		指導力の向上を図ります。	
		⑤重点目標に合致する研修、研究会に参加し、指導	
		力向上を図ります。	
		⑥外部講師を招聘し、研究授業で指導助言をあお	
		ぎ、教員の資質向上を図ります。	

【人権·道徳】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
3. 主体的な生	一人ひとりの興味関心	①道徳教育の充実を図ります。週 1 回の道徳をアク	人権意識向上に関する教員自己評価を
き方の尊重	を大切にし、だれにも自	ティブラーニングの場と位置づけ「考える道徳」「学び	4.4以上にします。(令和2年度 4.4)
	信を持たせる教育を行	あう道徳」を軸とした実践を行います。	
	います。道徳教育、人	②人権尊重を目標にした授業のほか、体験型の講習	
	権教育を軸に、互いの	会や社会見学、人権を意識した校外行事を実施し、	
	個性を尊重しあえる土	人権意識の向上をはかります。	
	壌をつくります。	③いじめ等を防ぐために、各学年アンケートを行い、	
		人権意識を育てます。(学年はじめと宿泊行事の前	
		に実施)	
		④日記や作文などをもとに、子ども同士の人間関係	
		を推し量り、よりよい学校生活を送ることができる環境	
		を整えます。	
		⑤「学習の記録」及び「指導要録」に記載する個人内	
		評価を検討し、実施します。	

【施設·設備】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
4. 教育環境の	学校の美化に全校で取	①児童の自教室の美化意識を向上させることを、校	美化に関する教職員の自己評価を 4.2
充実	り組みます。	内全体の美化意識向上につなげます。	以上にします。(令和2年度 4.2)
		②児童に持ち物を自主的に整理整頓させ、担任は定	保護者、児童アンケートのうち、「校内の
		期的に指導を行います。	施設、設備は充実している」の評価を向
		③児童会・美化委員会が企画立案する駅前清掃、	上します。
		校内清掃を実施します。	
		④老朽化した設備を修理、改修し、校内の安全性と	
		美化を向上します。(体育館・教室・特別教室・廊下)	
		⑤プール・更衣室・特別教室の移転先を検討し、計	
		画します。	
		⑥遊具を再検討し、配置を計画します。	
		⑦学校美化のポスターを作成します。	
		⑧新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、	
		校舎内に「光触媒コーティング(ENCOAT)」を再施	
		工します。(抗菌、抗ウイルス、防汚、消臭効果が期	
		待できる)	

【環境】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
5. 安心、安全	(1)児童の生命を守る	[一般防災に関する対策]	「防災や安全に関する指導」の教員自
な学校づくり	ために、対策をたて取り	①防災マニュアルに沿った避難訓練、マニュアルの検	己評価を 4.1以上にします。(令和2年
	組みます。	討を行います。	度 4.1)
		②マニュアルが機能するよう、避難通路や防災用具を	
		定期的に点検します。	
		③大阪880万人訓練に参加し、防災意識の向上を図	
		ります。	
		④緊急時の一斉配信システムを整備します。	
		⑤宿泊を伴う校外行事では、最初に避難経路を児童	
		に知らせ、必要に応じて避難訓練を行います。	
		[不審者等の危機管理]	
		①不審者対策危機管理マニュアルにそって危機レベ	
		ルごとの迅速な対応ができるよう、職員の訓練を行いま	
		す。	
		②不審者対策として、校内に防犯カメラを設置し、児童	
		の安全確保をよりいっそう強化します。	
		③不審者対策危機管理マニュアルを作成し、児童に	
		危害が及ぶ危険性を段階的に設定します。	
		④地域集会で各地域の危険な箇所を選び、詳細な指	
		導を行います。	
	(2)児童の安全に対す	①「自分のいのちは自分で守る」意識を徹底させ、教職	
	る意識を向上させるた	員とともに臨機応変に避難できる子どもを育てます。	
	め、特別活動や道徳の	②外部組織と連携し、安全意識向上のための教育を	
	時間を使って教育を行	行います(四條畷警察による安全教室、NTT による安	
	います。	全モラル教室 大阪府少年サポートセンターによる非	
		行防止教室 大阪府警による非行防止教室等)。	
		③高所からの転落や、頭部の打撲時など緊急を要する	
		校内事故に遭遇した場合のマニュアルを再検討し、周	
		知します。	
	(3)防災対策を強化し	①火災、地震等の防災係を組織します。	
	ます。	②防災マニュアルを作成し、マニュアルに沿った避難	
		訓練を実施します。	
		③地域集会で、各地域に即した防災指導を行います。	

【児童募集】

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
6. 内部連携を	幼稚園・中学校との連	[幼稚園との連携]	
強化し募集活	携を強化し募集活動を	①連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交	令和2年は、幼稚園からの内部進学者
動を充実	充実します。	流を深めます。	は33名でした。
		②保護者対象の公開授業や説明会を実施します。	今年度は、内部進学者 45 名以上を目
		③幼稚園の連携を強化し、内部進学数の増加に努	標とします。
		めます。	
		④児童による園児との交流の場を設け、小学校の取	
		り組みが園児に伝わる機会を増やします(本読み、も	
		の作り、音楽交流)。	
		⑤在園児が兄弟関係である保護者への内部進学の	
		進路指導を強化します。	
		⑥幼稚園教員へ小学校の魅力を伝え、幼稚園保護	
		者に伝達してもらう手立てを検討します。	
		[中学校との連携]	
		①連絡会・協議会などを通じ教師間の相互理解と交	令和2年度は、中学内部進学者53名
		流を深めます。	(59%)でした。(90名中)
		②中学校の連携を強化し、内部進学数の増加に努	今年度は内部進学者 70%以上を目標
		めます。	とします。
		③内部進学の進路指導を強化します。	
		④クラブ体験や授業体験を設け、中学の活動が小学	
		生に分かる機会を増やします。(運動クラブ体験、文	
		化クラブ体験、理科授業体験、中学出前授業)	
		[募集活動を検討します。]	
		①児童募集活動の課題を抽出し、その対策を検討し	令和2年度は入学者80名でした(1月
		ます。	現在)。
		②入学を検討している保護者に対する、校内外入試	今年度は定員充足 90 名以上に努めま
		説明会・塾説明会・体験授業の方法を検討します。	す 。
		③広報媒介を検討します。	
		④私学展等の公開説明会での説明方法を改善しま	
		す。	
		⑤外部幼稚園への広報活動を拡充し、希望する園	
		で説明会を実施します。	
		⑥Web 説明会2021を実施します。	
		⑦学校見学会を実施します。	

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
1. 幼児期の教育は生	(1)建学の精神「報恩感	①教育時間においては、1号認定、2号認定と	自己評価点を「4.0」以上
涯にわたる人格形成	謝」を実践するとともに、	も、附属幼稚園としての教育水準を保つよう	とします。
の基礎を培う重要な	子ども子育て支援事業の	にします。	(幼稚園型認定こども園移
ものであることを重	拡大を図り、家庭におい	②号認定に応じて、早朝預かり保育、預かり	行2年目を迎え、PDCA サイ
視し、環境を整備しな	て、保護者全員が就労して	保育、保育時間、延長保育を設定しています。	クル活用して、教育・保育力
がら、心身の健全な成	いる場合等の利用拡充を	③保護者全員が就労していない場合等か、保	の向上を目指します)
長を促す中で、報恩感	図る為、幼稚園型認定こど	護者全員が就労している場合等かを見極めな	
謝の精神を培います。	も園に移行して2年目を	がら、預かり枠を設け、状況に応じた保育を	
	迎えます。	行ないます。	
2. 幼稚園型認定こど	(2)従来の教育・保育内	④YY プロジェクトの目標である「心の力」・	
も園に移行し、地域社	容を引き続き実践するた	「学ぶ力」・「体の力」をバランスよく育み、	
会に向けて、子育て世	め「YYプロジェクト(ヨ	人間的に自立し、自分の力で夢を実現できる	
帯に向けて、子ども子	コミネ式教育法)」を推進	ようにします。	
育て支援事業の具体	します。	⑤子ども子育て支援事業として、「つどいの広	
的な拡大を更に図り	(3)「つどいの広場」・「相	場」と「相談支援」を中心に積極的な活動を	
ます。	談支援」活動など積極的に	つづけていきます。	
	子ども子育て支援事業の		
	拡充を図ります。		
	(4)感謝の気持ちを培	⑥あらゆる機会を通じて、「ありがとうござい	自己評価点を「4.0」とし
	い、表現できるようにしま	ました。」の言葉が自ら出てくるようにし、「し	ます。
	す。	てもらったことに感謝し、自分もお返しをし	(感謝の気持ちを持ち、それ
		よう。」いう気持ちを養います。	を伝える環境を作ることを
			目指します)
3. 基本的生活習慣の	(1)4学年体制になり、	①最年少クラス(満3歳児)は、誕生月の翌	自己評価点「4.0」を目指
形成と規範意識を高	 年齢に応じた基本的生活	│ │月からの登園を基本とし、年少・年中・年長	します。
め、社会的マナーを身	習慣とルールを守ること	 クラスにおいては、学年に応じて、挨拶の徹	
に付けます。	やマナー意識を身に付け	│ │底、衣服の着脱の習慣、食育の意識向上など、	
	ます。	 生活習慣上大切な習慣を身に付けます。マナ	
		│ │ 一の点では、人と接する時に「しなくてはな	
		らないこと」と「してはいけないこと」の判	
		断力の修得に努めます。	
	(2)集団生活に必要な思	①集団のルールを理解し、集団の中で自分の	自己評価点を「3.8」以上
	(2) 素団エカに必要な心 考力、態度と行動を養いま	①柔団のが ルを壁牌し、楽団の子で自分の	自己計画点を「3.0」以上 とします。
	は、一方の、然及と打動を扱いる	ちを養います。	
	, ,		
	<u> </u>		

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
4. 安全・安心な教育	(1)安心·安全、衛生面	①号認定の違いで、預かる時間に違いが生じて	自己評価点を「4.0」を
環境を整え、子どもの	に重視した環境の整備に	いるが、開園中の安全確保(セキュリティ)と	目指します。
積極的で活発な活動	努めます。	保育室の環境整備に努めます。	
を促します。		②最年少児(満3歳児)の水遊びや年少児以上	
		の戸外プール時は、感染症対策と周辺工事時進	

		③登降園時の防犯、安全、衛生対策を徹底	
		します。	
		④園内における健康管理に努めます。	
		⑤防災・避難訓練・交通安全教育・防犯教室を	
		可能な限り実施します。	
	(2)学年に応じた子ども	①教材・遊具・用具を利用して、学年に応じた	自己評価点を「4.0」以
	の積極的な活動力を培い	活発な行動力を身に付けるようにします。	上とします。
	ます。	②栽培を通して、食の大切さを考える機会を作	
		ります。	
		③園外に出る行事で視野を広げ、人と触れ合え	
		る場を積極的に作ります。	
5. 幼稚園生活を通し	(1)教育・保育環境の整	①運動や遊びを通して、挑戦しようとする気持	自己評価点「4.0」以上
て積極的に取り組む	備、充実を図ります。	ちや技能を高めます。	を目指します。
行動や友達と助け合		②読み・書き・計算などに関心を持ち、主体的	
い協力する態度を身		に考え、表現する力を養い、努力や協力の大切	
に付けます。		さを学びます。	
	(0) 料啦品の次所力した	① 田安ナ 毛切し かがこ ケ眼 口煙 ・ 中間 却 生 笠	
	(2)教職員の資質向上を	①週案を重視しながら、年間目標、中間報告等	自己評価点「3・8」以上
	図ります。	常にPDCAサイクルを回すことを継続しま	を目指します。
		す。 ②預かり保育担当職員との情報共有、共通理解	
		②預がり休月担当職員との情報共有、共通理解 に努め、連携を強化していきます。	
6. 子どもの個性・発	(1)健康で活発な子ど	①号認定における幼稚園の滞在時間の違い	自己評価点を「4.0」と
達・特性に応じた指導	も、周りの人に対して優し	によって、教育水準に差が出ないようにしま .	します。
を丁寧に行ないます。	くできる子どもに育てま	す。 	
	す。 		
	(2)個性を尊重し、伸ば	①一人ひとりの子どもの個性・発達・特性に	自己評価点「4,0」とし
	す指導、支援を行ないま	応じた指導を継続して行ないます。	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
	す。	11.0 × 9.10	5.70
	, °		

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
7. 教育・保育活動で	(1)来園できない状況を	①4学年体制と号認定の違いはありますが、	自己評価点を「3.8」を目
保護者との連携を重	考慮に入れながら、連絡方	各家庭に可能な限りの協力・支援体制をお願	指します。
視して、地域の方との	法に工夫を凝らして、行な	いしていきます。	
関係を密にしていき	います。		
ます。	(2)地域の理解や協力を	②教育・保育活動における支援と奨励に努	自己評価点「4.0」としま
	得て、子ども子育て支援事	め、子ども子育て支援事業推進のため、本園	す。
	業を推進していきます。	では、「つどいの広場」、「相談支援」事業を	
		行ないます。	
8. 教職員の研修を推	(1) 園外の研修会では、	①対面、WEB 研修会の両方に於いても情報を	自己評価点を「4.0」とし
進し、幼稚園型認定こ	WEB で実施することが予	共有化し、研鑚に努めます。	ます。
ども園運営体制の充	想されますが、可能な限り		
実を図ります。	積極的に参加します。 園内		
	研修会において、保育力の		
	向上目指します。		
	(2)教職員の協力・連携	①学年目標の到達度を常に確認しながら、、	自己評価点を「4.0」とし
	を継続、教育・保育力の向	週案を重視することで到達度を確認してい	ます。
	上と充実を図ります。	きます。	
9. 入園希望の保護者	(1)最年少クラス(満3	①最年少クラス(満3歳児)は3年目を迎え	自己評価点「3.8」以上を
のニーズを研究し、募	歳児)と2歳児教室ひよこ	て、幼稚園生活を順調に送ることができる環	目指します。
集力を引き続き強化	組の受入体制を常に検討	境を更に整えていきます。	
します。	します。	②幼稚園型認定こども園として運営面を含	
	(2)幼稚園型認定こども	めて、園生活が順調に送れるようにします。	
	園としての順調な運営を	③「預かり保育」関係の手続き、給食費に於	
	行ないます。	いて主食・副食費の手続きが順調に行なうよ	
	(3)こども園関係の手続	うにします。	
	き、無償化に伴う手続き等	④多様化する預かり保育の利用拡大が想定	
	を確実にします。	されるため、園児管理ソフト「Brain」 I の安	
		定した確認作業を行ないます。	
	化「Brain」の定着を図りま	⑤「読み聞かせ」や「ものつくり」などに参	
	す。	加することで、特に内部進学の強化と推進を	
	(5)学園小学校との交流	図ります。	
	会や内部進学希望調査を	⑥新園舎の完成に伴い2歳児教室(ひよこ	
		組)の安定した運営を行ないます。 	
	推進を図ります。		
	(6)課外教室は、採算面		
	含めた検討を継続します。 		

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標
10. 園児募集対策で	(1)最年少クラス(満3	①幼稚園紹介 DVD の作成、幼稚園説明会、	自己評価点「4.1」以上を目
は来園機会の減少に	歳児)の募集広報活動の強	満3歳児受入説明会や入園募集説明会、園庭	指します。
そなえ WEB による紹	化を継続します。	開放など参加者増につながるように、感染症	
介企画を継続する。	(2)1号認定の園児募集	対策を見据えた募集広報活動を継続します。	
	を引き続き積極的に行な	②インターネットやポスター、チラシや市報	
	います。	等の広報誌など様々な媒体を使って広報し	
	(3)2号認定に対応する	ます。	
	ため、管轄市町村との連携	③ホームページ閲覧につながる Instagram 等	
	を密にします。	の情報を提供していきます。	
	(4)2歳児教室(ひよこ	④子ども子育て支援事業「つどいの広場」、	
	組) は3コース45名を継	「相談支援」を行なうことを継続します。	
	続します。	⑤2歳児教室(ひよこ組)を3コース制定員	
	(5)プレエクササイズを	45名にすることで、新園舎の稼働率をあ	
	後期に開講します。	げ、募集に繋げます。	
		⑥入園準備として親子プレエクササイズを	
		継続します。	

保育園

No	施策種類	事業計画
1	園を取り巻く環境	(1)自前での園児募集
		企業主導型保育園は認可外保育園でもあるため、認可保育所とは異なり、自治体から園児の
		入園斡旋はされません。このため、園児募集は自前で行なう必要があります。
		(2)大東市・四條畷市の保育園の状況
		認可園及び企業主導型保育園は大東市・四條畷市に 51 園あります。定員割れを来している
		園や、1 号認定を設定する園もあり、今後、園児の獲得競争が激化することが予想されます。
		(3)学園幼稚園への2号認定での進級
		学園保育園から幼稚園への 2 号認定での進級判断は大東市による利用調整により実施され
		るため進級の保証はありません。特に、大東市以外の居住者の 2 号認定での進級は難しい状
		況となっています。
		[補足]学園幼稚園では 2 号認定と新 2 号認定(1 号認定)とで同内容の保育を提供していま
		す。学園保育園の卒園児には優先入園制度の適用があります。また、新2号認定には利用調
		整はありません。
		(4)保育料の設定
		学園保育園は近隣の企業主導型保育園等に比べ、相対的に割高な保育料を設定していま
		す。このため、保護者の満足度を向上させるべく、より良好な保育、特に高水準の設定保育を
		提供する必要があります。
		(5)自社枠の設定
		令和 5 年度より、定員比 10%の自社枠の園児数(3 名)確保が義務化されます。学園の教職
		員の子弟の利用人数を自社枠分確保することが必要となります。[R3 年度実績: 園児 2 名]
2	保育の質の確保・向上	(1)教職員の資質・専門性の向上
		園外研修、園内研修の積極的で計画的な受講を通して、教職員等の資質・専門性の向上に
		務めます。園内研修では外部講師を招いて、学園幼稚園と同様にヨコミネ式教育法の習得・
		向上を図ります。
		(2)設定保育の強化・充実
		かけっこ・体操、造形表現、リトミック、学習[文字・数字・国旗・地理など]、絵本の読み聞かせ
		をより一層強化・充実させます。
		また、専門家による設定保育を、教職員が共に行うことにより、教職員の保育スキルの向上に
		努めます。
		(3)絵本·紙芝居の充実
		絵本、紙芝居の種類·冊数をより充実させ、読み聞かせを通して、感情豊かで、語彙力の豊富
		な子どもに育てます。
		(4)保育体制の充実
		休憩対応保育士の配置、配置基準以上に教職員を配置する等保育体制の充実を維持・
		向上させます。

No	施策種類	事業計画
3	事故防止への取組み	(1)ヒヤリハットの検証と事故の防止・抑止
		過去のヒヤリハット、他園事故事例を教職員間で共有・確認して、類似事故の発生等を防
		止、抑止に務めます。また、大きな事故の発生を防止します。
4	給食のレベルアップ	(1)食中毒防止の徹底
		HACCP(ハサップ)によるプロセス管理を徹底する等、食中毒発生の可能性を排除します。
		(2)調理員の能力向上
		調理員について、衛生管理知識・スキルの向上のため、調理師免許の取得をサポートしま
		す。
5	働き方改革への取り組み	(1)DX の推進
		コドモン、LINE WORKS等の活用によりデジタルシフトを推進し、、教職員の事務負担を軽
		減するとともに保護者の利便性にも配慮します。
		(2)ペーパーレスの推進
		必要なもの以外は紙での配付等を廃止し、事務負担を軽減するとともに保護者の利便性に
		も配慮します。
6	保護者満足度の向上	(1)WEB参観の実施
		保育の様子をライブ配信し別室のモニターで見学できる「WEB参観」を定期的に開催しま
		す。教職員が同席し、保護者の反響、意見等を聴く機会としても活
		用します。
		(2)保育映像の提供
		保育風景を録画し、YOU TUBEの限定公開機能により自宅等で見ることができる機会を
		継続的に提供します。
		[注]公開期間は短期間に限定。URLを秘匿し検索できない設定とします。)
		(3)情報の共有化の推進
		LINE WORKS、コドモンを通して、保護者の方と園とで必要な情報をタイムリーに共有しま
		す。
7	社会貢献・文化活動の推進	(1)地域枠の設定
		地域枠の設定により、地域の待機児童、保留児童の解消に貢献します。
8	園児募集	(1)内部関係者への告知の強化
		学園の教職員、保護者等への継続的な広報等により保護者会・同窓会・後援会等の学園
		関係者への認知度を向上に務め、安定的な園児確保につなげます。
		(2)WEBサイト、SNSによる広報の充実
		WEBサイトの充実、Facebook 等のSNSのフォロワー数の増加により、園の認知度を向上さ
		せ、園児募集につなげます。

No	施策種類	事業計画
		(3)プッシュ型広告の実施
		主要登園エリアである大東市、四條畷市、東大阪市、交野市の市報に適宜園児募集広告
		を掲載し、認知度の維持・向上を図ります。
		(4)キャンセル待ちの確保
		キャンセル待ちの園児を常時確保し、途中で退園する園児がでてもすぐに定員を補充でき
		る体制をとります。
		(5)自社枠の確保
		令和 5 年度より義務化される自社枠の定員枠について、他園情報のリサーチ、園児確保の
		方策等を検討します。
9	内部進学	(1)学園幼稚園への接続[2号認定子ども]
		学園幼稚園と同じヨコミネ式教育法を一層充実させ、幼稚園に入園しても継続的で連続性
		のある保育となることにより幼稚園進級につなげます。
		(2)学園幼稚園との連携
		学園幼稚園の運動場、遊戯場等の設備の利用等、連携を強化すると共に、教職員、園児
		との交流を図ります。これにより、学園幼稚園への進級につなげます。
10	その他	(1)課外教室の実施
		今年度はじめて保育園として、2歳児および1歳児(年度後半から)の課外教室の体操教
		室を実施します。多数の園児が参加してくれるよう充実したカリキュラムを提供するよう努め
		ます。

※四條畷学園

主な新規事業計画

【法人本部】

No	事業名称	事業概要
1	[共通]経費システム更改	e 経費のバージョンアップ、サーバリプレイスを実施。
2	[共通]図書館システム更改	図書館システムのバージョンアップ、サーバリプレイスを実施。
3	[共通]短大〜高等学校間の構内専 用線の増速化	短期大学~高等学校の構内専用線を1GBPS⇒10GBPS に増速化実施。
4	[共通]教職員用 PC 等リプレイス	Windows7のPCをWindows10のPCにリプレイス実施。
5	[高等学校]体育館	雨漏りを防ぐための屋根の改修工事実施。
6	[高等学校]本館	(1)2 階のトイレの増設工事実施。
		(2)外壁タイルの打診調査実施。(10 年毎)
7	[高等学校]総合ホール	エレベーターの部品等の取り替え(予防保守)
8	[短期大学]音楽研究室	水冷式冷房設備の更改。
9	[短期大学]北条学舎	(1)調理実習室の床の改修工事実施。
		(2)体育館の照明の LED 対応実施。
10	[各校園の校舎]定期検査	3 階·2,000 ㎡以上の建物について建築基準法上の検査·報告実施。
11	[各校園の校舎]消防設備	非常灯、感知器、消防放水口等の点検実施。

【大学】リハビリテーション学部

No	事業名称	事業概要
1	[作業]自助具一式更新	福祉用具の自助具一式の更新。
2	[作業]重度障害者用意思伝達装置	コミュニケーション支援用具の重度障害者用意思伝達装置の導入。
	導入	
3	[理学]マイクロ波治療器導入	患部に対してマイクロ波を照射する温熱療法による治療のためのマイクロ波治
		療器を導入。
4	[理学]救急救命模型導入	心肺蘇生の訓練に使用する救急救命模型の導入。

【大学】看護学部

No	事業名称	事業概要
1	SCENARIO レンタル期間延長	多職種連携ハイブリットシミュレータの SCERARIO のレンタル期間を 1 年間延
		長。
2	筋肉注射模型導入	肩峰の触診により,上腕筋肉注射部位の確認ができる筋肉注射模型の導
		入。

【大学】学部共通

No)	事業名称	事業概要
1		WEB 出願システムの導入	WEB 出願システムの導入。
2		アセスメントテストの導入	学修効果を測定するためのアセスメントテストの導入。

【短期大学】

該当無し。

【高等学校】

No	事業名称	事業概要
1	Chromebook 導入	発展キャリアコースに 100 台導入。
2	ディスプレイ導入	各教室等にディスプレイ計 50 台を設置。
3	iPad 導入	iPad6 台導入。
4	防球ネット設置他	防球ネットの設置等実施。

【中学校】

No	事業名称	事業概要
1	コンピュータ室 PC 修理ほか	コンピュータ室に設置している PC の修理実施。
2	楽器修理	吹奏楽部で使用している楽器の修理実施。

【小学校】

No	事業名	i称	事業概要
1	監視力	メラ増設	監視カメラの増設。
2	清掃用	具入れ購入	各クラスに清掃用具入れ導入。

【幼稚園】

No	事業名称	事業概要
1	日よけカーテン設置	各保育室等に日よけカーテン設置。

【保育園】

No	事業名称	事業概要
1	保育用具の購入	保育の質の確保・向上に必要な保育用具の購入。
2	絵本、紙芝居の購入	図鑑、絵本、紙芝居の作品を充実。
3	楽器の購入	リトミックで使用する楽器の購入。



創立以来変わらない感謝の気持ちを未来へ